



構成

堂内中央の須弥壇しゅみだんに金剛界大日如来、背面の来迎壁らいごうへき、四天柱、柱をつなぐ長押なげし、内壁上段、扉、天井格子、そして敷居にそれぞれ如来、菩薩、祖師、各種裝飾文様を描く。

堂内は金剛界大日如来を中尊とした金剛界曼荼羅を表出する。中尊を囲むように配置された四天柱にはそれぞれの方位に金剛界の如来と諸菩薩および四大神が、四天柱をつなぐ長押には各種の結界が描かれる。

中尊背面の来迎壁くんじょうには群青地に宝瓶、来迎壁裏面に久米田寺開山の行基菩薩ぎょうきを描く。

内壁上段に真言八祖、扉の各面に守護八方天、周囲の敷居には蓮華門ほうしやうそうと宝生草、天井は虚空と羅網を表す彩色を施す。

諸尊と結界

1. 中尊 金剛界大日如来。智拳印を結び、結跏趺坐に蓮台に坐す。菩薩形で宝冠の正面に当多宝塔を、背面に胎藏界五智如来を配置する。頭部に胎内仏（胎藏界大日如来）が納められる。

台座蓮弁は一枚ずつ着脱可能で、差し込み部分の銅板には多宝塔の立面図形と蓮弁寄進者の氏名が彫り込められている。

2. 来迎壁 群青地の周囲は五色（外周より黒、緑、赤、黄、白）の界道（結界）が敷かれ、四隅には宝瓶が置かれる。宝瓶には五宝、五穀、五薬、五香の二十種類の供物を入れ、浄水を満たし、その瓶口に蓮華を挿して蓋とし、綵帛さいはくを装う。金剛界曼荼羅いちいんえの一回の構図。

裏面には当山開祖の行基菩薩（670～749）が礼盤に坐し、右手に念珠、左手に如意を持つ姿が描かれる。

3. 四天柱 **東** 正面上段より阿闍如来あしやく・金剛波羅密菩薩はらみつの尊形、金剛焼香菩薩しょうこうの三摩耶形、そして背面上段より金剛薩埵こんごうさつた・金剛嬉菩薩こんごうきの尊形、金剛鉤菩薩こんごうくの三摩耶形さんまやの諸尊が描かれる。

この他に各柱の共通の装飾として最上段には緑青の唐草の地に正面に赤色八葉蓮華と側面に法具かつまの羯磨かつまが置かれる。蓮華は地、水、火、風の四大神の表象である。最下段にも同様にして緑青の唐草の地に正面には火焰をもつ蓮華に乗る三瓣宝珠さんべん、背面には同様の形式の三鈷杵、そして両側面には羯磨かつまがそれぞれ置かれる。その上には前後の二つの宝瓶より発生する宝相華てんぼうりんと転法輪が描かれる。これらを区分する境界の帯と群青地に配置された宝珠の帯が描かれる。

- 南** 正面上段より宝生如来ほうしょう・宝波羅密菩薩ほうはらみつの尊形、金剛華菩薩こんごうけの三摩耶形、そして背面上段より金剛宝菩薩こんごうほう・金剛鬘菩薩こんごうまんの尊形、金剛索菩薩こんごうさくの三摩耶形さんまやの諸尊が描かれる。

- 西** 正面上段より無量寿如来むりょうじゆ・法波羅密菩薩ほうはらみつの尊形、金剛燈菩薩こんごうとうの三摩耶形、そして背面上段より金剛法菩薩こんごうほう・金剛歌菩薩こんごうかの尊形、金剛鑊菩薩こんごうそうの三摩耶形さんまやの諸尊が描かれる。

- 北** 正面上段より不空成就如来ふくうじゆじゆ・羯磨波羅密菩薩かつまはらみつの尊形、金剛塗香菩薩こんごうずこうの三摩耶形、そして背面上段より金剛業菩薩こんごうごう・金剛舞菩薩こんごうぶの尊形、金剛鈴菩薩こんごうれいの三摩耶形が描かれる。

上記の諸尊像は儀軌ぎきに準じて描かれているが、如来の肌色のみ儀軌とは異なり黄金色となっている。

4. 長押 **外周** 上段立面には中央の転法輪を挟んで一對の龍が描かれる。背景は白群の地に群青の雲。龍は当山の山号でもあり、周囲の四対の龍で仏法を護持する八大龍王を表す。それぞれの龍は顔が相対するようになっている。前足にはそれぞれ四大（地、水、火、風）を表す色の宝珠を持つ。上段下面には金剛火焰の結界が描かれる。

下段立面には牡丹ほうそうげ（宝相華）唐草が描かれる。牡丹唐草たいざうは胎蔵曼荼羅の中で結界の一つとして描かれている。下段下面には（内周と外周）白色の宝珠を配置した赤色の纏うんげん彩色さんこしょに三鈷杵を連ねた結界（三鈷杵道）が描かれる。

内周 上段立面には中央の羯磨を挟むように青色の縹縹彩色に白色の宝珠と三鈷杵を配置した結界が描かれる。上段下面には外周部と同形の火焰が描かれ、四隅には蓮華に乗る三鈷杵が配置される。下段立面には蓮華唐草が描かれる。金剛界曼荼羅一印会で中尊の周囲に巡らされている文様に倣っている。

5. 天井 天井板は宇宙の虚空を表す群青に塗られ、それを覆うように大小の格子が連なっている。この格子は羅網（金剛網）の象徴で、多次元の宇宙が有機的に繋がっていることを表す。

6. 敷居 四方の扉部分の敷居にはそれぞれ蓮華門が描かれる。これは金剛界曼荼羅の一印・四印・理趣の三会の四方に描かれている九葉の赤蓮華である。この蓮華門に連続して宝生草が描かれる。この草は吉祥草と同様に根なく無尽に生い繁る蔓草で、供物を載せる敷物などに使われ、神聖な植物とされている。

九葉赤蓮華の九葉とは、胎藏界八葉の九尊、つまり九識である。赤色は大悲を表し有情を愛染する色であり、心臓を標示する色である。

金剛界曼荼羅には胎藏界の蓮華門を描き、胎藏曼荼羅には金剛界の金剛門を描く。金剛界の智に入るには胎藏界の理の門から、胎藏界の理に入るには金剛界の智の門から入るのである。また、四門は発心・修行・菩提・涅槃の四転、常楽我淨の四徳を表すものである。

7. 扉 八枚の扉には各方位を守護する善神（八方天）が描かれる。

- ・東方 帝釈天 (Indra)
- ・東南方 火天 (Agni)
- ・南方 焰摩天 (Yama)
- ・西南方 羅刹天 (Nirti)
- ・西方 水天 (Varuna)
- ・西北方 風天 (Vayu)
- ・北方 毘沙門天 (Vaisravana)
- ・東北方 伊舎那天 (Isana)

8. 内壁面 壁面上段には真言八祖が描かれる。各祖師の配置は先例に倣っている。

- ・東方に善無畏三蔵 (Subhakarasiṃha : 637~735 中天竺)
- ・東南方に一行阿闍梨 (大慧禪師 : 683~ 727 唐)
- ・南方に恵果阿闍梨 (746~805 唐)
- ・西南方に弘法大師 (774~836)
- ・西方に龍猛菩薩 (Nagarjuna : 約250頃 南天竺)
- ・西北方に龍智菩薩 (Nagabodhi : 約500頃 南天竺)
- ・北方に金剛智三蔵 (Vajrabodhi : 671~741 中天竺)
- ・東北方に不空三蔵 (Amoghavajra : 705~774 北天竺)

久米田寺多宝塔内莊嚴彩色——配置図——

四天柱

① 西方	むりょうじゆによらい 無量寿如来 こんごうほうぼさつ 金剛法菩薩	ほうはらみつぼさつ 法波羅密菩薩 こんごうかぼさつ 金剛歌菩薩	こんごうとうぼさつ 金剛燈菩薩 こんごうさぼさつ 金剛鑠菩薩
② 南方	ほうじょうによらい 宝生如来 こんごうほうぼさつ 金剛宝菩薩	ほうはらみつぼさつ 宝波羅密菩薩 こんごうまんぼさつ 金剛鬘菩薩	こんごうけぼさつ 金剛華菩薩 こんごうさくぼさつ 金剛索菩薩
③ 東方	あしゆくによらい 阿閼如来 こんごうさつた 金剛薩埵	こんごうはらみつぼさつ 金剛波羅密菩薩 こんごうきぼさつ 金剛嬉菩薩	こんごうしょうこうぼさつ 金剛燒香菩薩 こんごうくぼさつ 金剛鉤菩薩
④ 北方	ふくうじょうじゆによらい 不空成就如来 こんごうごうぼさつ 金剛業菩薩	かつまはらみつぼさつ 羯磨波羅密菩薩 こんごうぶぼさつ 金剛舞菩薩	こんごうずこうぼさつ 金剛塗香菩薩 こんごうれいぼさつ 金剛鈴菩薩

